

令和3年度学校評議員に係る諸報告について（報告）

1 学校評議員(学校関係者評価者)に意見を求めた事項及び学校評議員の主な意見

事項	学習指導・生徒指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて、コロナ禍の中でも感染拡大防止策を講じながら公開授業や授業研究等を実践したことは意義あることと考える。同時に授業のICT活用や授業のオンライン化も期待する。 ・コロナ禍において思うような活動ができなかったことと思う。今後も、生徒の能力に応じきめ細かく、生徒の主体性を伸ばす工夫をお願いしたい。 ・コミュニケーション力を向上させるプログラムを授業や学校生活のどの場面に位置づけるかが重要と考える。教職員の当事者意識向上をさらに図りながら指導をお願いしたい。
事項	進路指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや体験学習を実施できないのは残念。生徒が自信を持って社会に出て行けるように実施をお願いしたい。 ・外部講師の面接指導を取り入れていることはよいと思う。可能ならもう少し早めに実施できればさらによいと思う。ロータリークラブやライオンズクラブに協力依頼してはどうか。 ・総合的な探究の時間「さくらクエスト」の定着と効果に期待する。
事項	特色ある教育活動
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月さくら通信が地域の全戸に配布されている。生徒の活動が伝わってくる。 ・ホームページの内容が古いものもあり、信頼度の向上のために定期的な更新をお願いしたい。 ・コロナ禍で思うような活動ができなかったことは残念に思う。しかしこれまで培ってきたさくら高校と地域のつながりを大切にして、次年度に引き継ぐことが重要だと考える。
事項	防災教育
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ボランティアの活動やジュニアリーダー養成研修会への参加など、興味を持っている生徒への後押しをお願いしたい。 ・東日本大震災の記憶や教訓が薄れないよう、当時の事を伝承してほしい。

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ（取り組む予定の）事例及び成果（期待される成果）

事例	<p>○令和4年度入学生から適応となる新しい学習指導要領への備えを十分に行い、指導と評価の一体化を目指した「田尻さくらの『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて、少人数授業・TT・ICT活用を手立てに組織的に授業改善に取り組んでいる。</p> <p>○校内では学校オンライン推進委員会の2年目となり、授業のICT化に拍車がかかった。同時に文部科学省事業のCOREハイスクールネットワーク構想事業における授業配信校としての準備を行った。</p> <p>○総合的な探究の時間を「さくらクエスト」と題して、探究活動の中で段階的に進路意識の醸成を図り、進路目標達成を目指す態度を育てている。</p> <p>○外国籍の生徒たちから学びに向かう意欲に乏しい生徒まで取り組むことができる学校設定科目の充実や、ICTを活用した基礎学力向上を目指した学習支援方法を探る。</p> <p>○各種行事において、生徒がより主体的に活躍できるよう環境整備を行い指導していく。また、さくら文化講演会や伝統文化に触れる行事を通して、生徒の感情を豊かにし、心を育む取組を充実させる。</p> <p>○今年度はコロナ禍で2年間休止となった「さくらチャレンジ講座」を再開し、社会人聴講生を受け入れる企画である。異世代間コミュニケーションを図り、お互いを高めあえる環境を準備する。</p> <p>○さくら通信（学校通信）の地域住民への全戸配布、さくらギャラリー（昇降口のホール）の地域への開放等を行い、開かれた学校として地域に情報を継続的に発信している。</p>
成果	<p>○新学習指導要領に基づく授業と評価法について2年かけて研究し、いよいよ実施の時を待つばかりとなった。生徒個々にとって個別最適な学習を提供できる準備が整い、4月からはPDCAサイクルを回すこととなる。</p> <p>○個に応じたきめ細やかな指導を目指し、個別の支援が必要とされる生徒に対しては、教育相談・特別支援委員会等で支援的指導方法を検討し、組織的に対応する体制作りに取り組んでいる。</p> <p>○総合的な探究の時間や各種行事において、生徒のコミュニケーション力の向上を図るために、計画的に生徒個々に役割を与え、生徒が主体性をもって活動できるよう環境整備を行っている。</p> <p>○さくら通信（学校通信）の発行やさくらチャレンジ講座（社会人聴講生制度）の充実、開かれた学校から地域と共に歩む学校として高い評価を得ている。</p>